

## 日弁連の「事務職員能力認定制度」 研修会及び試験に参加して

7月26日に日弁連の「第1回事務職員能力認定試験」が行われ、私も受験した。「試験」と名のつくものとはもう二度とお付き合いすることはないと思っていたのに、20年ぶりに、お付き合いすることになり試験当日までかなりドキドキした。

法律事務所職員  
佐瀬 桂

### 事務職員が集まり勉強会 自分の弱点が見えてきた

試験前に、知人の事務職員数人で集まり勉強会を行った。法律事務所職員実務講座という研修テキストを出している法律事務所職員全国研修センター等が予想試験問題を出していたので、その問題を解き、答え合わせをしながら意見交換をした。久しぶりの試験に問題を読み違えて間違えたり、勘違いして間違えたり、お付き合いすることにどんどん気が重くなっていった。

しかし、この勉強会で試験をして確認することで、自分の弱点が見えてきた。そしてあまり関わったことのない仕事についてはきちんと理解していないこともわかった。そこで、自分の弱点分野に重点をおいて研修テキストを読んだり、六法を調べたりした。そのおかげで、改めて理解を深めることが出来たと思う。また、恥ずかしながら普段あまり六法を活用していなかったのだが、今回の試験に際して自分用の六法を買い、マーカーを引いたり、書き込みをしながら読んでみて、六法を調べることの大切さもよくわかった。

### 淡い期待を持って試験へ あっという間に過ぎた2時間

試験当日、ドキドキしながらも、それでも少し勉強をしたのだからもしかしたら大丈夫かな…という淡い期待を持ちながら臨んだが、試験問題を見て驚いた。

予想試験問題よりずっと難しい問題に思えたからだった。さらに、私が受験した17階の日弁連の会議室は、日比谷公園の野外音楽堂のコンサートから流れてくる音楽が響いていた。受験者の一部からは試験官に苦情があったようで、試験官の先生も「困ったもんだが、やめるともいえないのでね。」とお話されていた。

問題は難しいし、音楽はうるさいし、気持ちは焦る一方だった。しかし、試験を解き進むうちに音楽は気にならなくなった。難しい問題もあったが、単純な問題や六法を確認すれば分かる問題もあり、試験時間の2時間があっという間に過ぎ去った。

後は結果を待つばかりだが…。

### 会場にあふれる事務職員 真剣な思いはみんな一緒

今回の試験は、自分の仕事に対する習熟度を確認し、不十分なところを理解することが出来てとてもよい機会だったと思う。ただ、やはり日々の実務で関わらない仕事はなかなか覚えていられないので、六法や今回の研修のテキストなどで確認しながら仕事することが大切だし、自分が必要と感じたときにまた研修を受けることができるといいと思う。

試験会場は、クレオから始まって東弁、二弁、一弁、日弁連の全ての会議室を使うほどの事務職員にあふれていた。この仕事に対する真剣な思いはみんな一緒なのだ、私もがんばらなければと思った。